

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100128		
法人名	社会福祉法人 健慈会		
事業所名	グループホーム ぬくもり (うめユニット)		
所在地	岩手県九戸郡野田村大字玉川第5地割45-22		
自己評価作成日	平成26年12月1日	評価結果市町村受理日	平成27年5月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/03/index.php?action=kouhvu_detail_2014_022_kihon=true&JigyosyoCd=0393100128-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成27年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・家庭的で馴染みのある関係の中で、その人らしく過ごしながら安心して暮していけるよう支援していく。 ・レク・役割などを通じて個々の笑顔を見れるように支援していく。 ・体力低下の予防に努めADLの維持、QOLの保持に繋がるよう支援していく。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者への口腔体操の継続的な実践が優れている。毎食前に各ユニット毎に口腔体操を行っていて、日常生活リズムの一つになっている。これは村の歯科医院の歯科衛生士の定期的な訪問指導の効果と職員の根気強い支援の表れである。談話室内、廊下に口腔体操をイラスト入りで掲示しており、わかりやすい説明や、替え歌でスムーズに体操が継続している。次に挙げるのは、2ユニットでそれぞれ月間目標をたてていることである。職員で具体的な支援・サービスを共有し、利用者にも分かりやすく伝えられている。今後の具現化した理念作成の検討等につながることを期待したい。また、事業所内の廊下・壁等に水彩画や、ちぎり絵の大作が最優秀、優秀などの賞を付けて展示してある。審査員は事務や、栄養士等の他部門に依頼して行っているとのことでユニット間の競い合いになっている。利用者に意欲や、競争心を持ってもらい、協力し合ったりと生活に変化を持たせる工夫をしている。他の職種の職員も巻き込み、全体で利用者に関心を持つという姿勢も見られ継続を期待する。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月の定例会議時、理念の確認を行い、またサービス計画作成時、カンファレンス時には常に念頭に入れ検討している。	サービスの計画作成時は、理念の「その人らしい人生を送り続けられるように」との思いが活きるようにしている。日常生活の支援の中でも、カンファレンスを通して理念とサービスが結びつくように実践を心がけている。現在、理念の見直しを行っていて、わかりやすい理念を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事への参加、施設行事での交流、教育機関でのお互いの交流、日々の買い物など交流の機会は増えてきていると感じる。	事業所には、夏休み中に子ども会が訪問したり、地域の方が野菜を届けてくれたりと、行事を中心に地域との交流を行っている。町内会に加入しているが、地区民同様には活動できないため、年2回の事業所周辺のクリーン作戦に参加することで協力している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	7月に子供会との交流を始め11月に久慈保育所の社会科見学、昨年より継続の中学生との交流などで地域の人々へ向けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	4月、6月、8月、10月実施し前年度より意見を頂けるようになってきた。今後はお忙しい方々ばかりだがイベントまで参加を繋げられるようにしたい。	定例的に会議の開催が行われているが、もっと「会議を活かした」サービスや支援をしたいの思いがある。地域の理解と支援を得るための貴重な機会と捉え、会議メンバーからの率直な意見と行動力をもらい、サービスの向上に具体的に活かせるような運営推進会議となるように考えている。	運営推進会議のあり方を検討することを望みたい。行政だけではなく、地域の理解と支援を得るといことは「何かあったらすぐに駆けつけてくれる」隣人のような委員の選定や、議題によっては、地域の方から詳しい指導や提案してもらえるような環境作りを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所されてる方の家族の課題などを一緒に検討したり情報交換が出来る関係作りが出来てきている。今後ますます利用者が地域を利用して生活していくよう連携していきたいと考える。	情報交換や、それらを共有できる良い関係が継続されている。特に、地域包括センターとは、よく相談に乗っていただいたり適切なアドバイスをいただける関係となっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH施設内は常にオープンにLGH入り口は死角部分のため時間で施錠してはいるが利用者の希望には常時対応し閉鎖的にならないようにしている。	身体拘束をしないケアは、職員全体で理解し、実践している。外部研修の受講と伝達講習の実施で、職員のモラルは維持・向上している。事業所の構造上が原因で死角となる場所があり、施錠を行っているが、事務職員の協力を得ながら安全に過ごすことが出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	利用者と家族の意向に沿い支援をしている。支援で悩んだ場合は職員で検討し利用者の意向を第一に考え解決策を考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度も職員は外部の講習会には参加している。権利擁護の対象者は今のところいないが12月には施設内伝達講習会を予定している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはかぞくの要望などを丁寧に確認し不安、疑問には、その都度対応し十分な説明を行っている。また面会時、電話などでも用件のみで終わらず近況報告を行い家族との関係作りをしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃より家族からの意見・要望を何ような関係作りにも努めている。その為、希望・不満・苦情他なども施設や職員に伝えてくれている。今後も遠慮なく話せる関係を維持出来る様に努める。	利用者・家族等アンケート、入居者家族アンケート等からの意見・要望の聞き取りを行って、個別対応や問題の見直しを積極的に取り組んでいる。また、面会に見えられた家族にお茶で接待し、話しやすい雰囲気を作心がけ、多くの面会を働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の食費については職員全員が観覧できるようにしている。また毎月のユニット毎の定例会で各係りより話し合いの議題を必要に応じて提案され検討している。	運営会議や会議等の情報は会議録等で周知している。職員の勤務条件や、健康上の問題等には耳を傾け、問題時には本人との面接、情報収集、上司への報告、検討を重ね対応し、利用者への支援やサービスの低下にならないように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの就労条件に施設で可能な限り対応し全員が女性職員のため安心して就労出来る様に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得中の職員には希望の講習に参加が出来る様に勤務を配慮したり、他の講習にも希望の講習には可能な限り参加が出来る様に配慮している。また常にスキルアップの為にチャレンジを進めている。。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会や他の交流、勉強会には人員が少ない場合も勤務体制を工夫し出来る限り出席し研修の機会を有効に活用してサービスの向上に繋げたいと努めている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所契約前より家族・利用者から丁寧に聞き取りを行い、得た情報は詳細に記録を行い職員全員が周知を出来る様にしている。特に入所当初の不安要素には早急に対応と検討。また常に新しく利用者から知り得た情報は記録に残し周知出来る様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時に家族の意向をサービス計画に取り入れながら入所前の生活の様子を何度も聞き取りをして支援に繋げている。利用者が家族のみに話せる気持ちもある事を念頭に入れて家族との関りを重視している。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階に利用者が安心した生活を送れる様になるまで可能な範囲で家族の協力を得て利用者が早く環境に慣れ安心した生活が送れるように努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日頃から豊富な人生経験を持つ利用者の方々からの助言を頂き調理、洗濯等の作業に取り入れている。人生の先輩として尊重する関りが築けている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊は自由に出かけている。病院受診は家族対応が基本となっているので情報の共有と協力を行い常に連携を意識し支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容院へ出かける方や病院受診後に自宅や親戚に寄って来たり馴染みの店で買い物をしている様子がある。近くに家族の居ない方には職員が付き添って馴染みの店に買い物にも出かけることもある。		家族の協力も得て、外出等を行っているが、病院の受診時に外食や買い物をするなど気分転換を図るように配慮している。また、職員が同行し、馴染みの場所や人を知る事によって、利用者の好みを知り日常の会話の参考にする等、支援の継続につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事作業時のみではなく生活の中に自然に個々の役割があり、助け合いの姿も常に見られる。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設している特養へ移られた方については合同行事で関りをもったり利用者と散歩に行くなどの支援を行っている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日、利用者一人ひとりと職員が少しでも会話の機会を持つ様に心掛け利用者の意向を把握するように努めている。困難な場合は必ず多数の職員で検討し意向に沿える様に検討している。	職員が自分の担当の利用者と最低でも5分間の会話をしようという働きかけを継続している。意思の疎通が困難な利用者にも寄り添いながら、その場でできる声かけや支援を行い利用者本位の意向が実現できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活情報を家族に伺い利用者に安心して楽しく生活していただけるように私物の生活用品、家具などを用意したり家族・本人と相談をして経過を見ながら家族と連携を取り常に本人の様子の把握に努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活スタイルに合わせて読書、調理手伝い、掃除、散歩、ゲームなど個々に好まれる過ごし方を把握し職員は支援に努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議時で常に利用者の現状に合った支援方法を検討し早急な検討が必要な場合でも複数の職員で話し合いをしている。必要時は面会時のみでなく家族と相談し介護計画の反映に繋げている。	介護計画や支援方法は定例会議での検討はもちろんの事、日常の各場面において話し合い、検討を重ねている。家族への声かけについても問題に気付いた時点で、早めに家族に相談して解決や、現状に合う対策を共有できている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のカルテの他に連絡ノートを職員間で活用し、また朝礼を行い申し送りをしながら別のユニットの情報も共有できるようにして利用者の環境作りに繋げ多数の気づきに繋がるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスに捉われない柔軟な支援が行われていると思うが常に利用者は多種多様な状況な為、常に勉強が必要な事を意識している。			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(うめユニット)

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の希望により買い物や病院の利用あり。またユニットでの外食、買い物や保育所・小中学校との交流、お祭り見学など地域との協働を感じながら生活が出来る様に支援している。	
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院受診時には書面で情報提供を行っている。家族よりその都度、指示を報告してもらい不明な点がある場合は直接、病院へ問い合わせ適切な医療に繋げる様に努めている。	かかりつけ医への情報提供は、職員の同行の有無を問わず行っているが、受診する科によって情報不足となることがある。受診する科に、必要な情報を強調して提供できるような対策を行い適切な医療を受けられるように支援している。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の看護師との連携が取られている。看護師の指示の下、病院との相談も行い早めの受診を行っている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の支援は病院よりの支持に添って行い、病院からの情報を参考に退院直後のケアは利用者の観察に重点を置き認知症の進行についても念頭に置き支援を行い支援している。入院中も家族、病院と連絡を取り合い安心して施設生活に戻れるように努めている。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化や終末期を迎える方の支援については契約時に説明し特養に移られる事も理解を得ているが家族、本人の意向で今後、当施設で過ごす事を希望されることも視野に入れ外部の勉強会に参加したり職員間でも個々に勉強していくよう努めている。	重度化や終末期に向けた支援については、日頃から勉強会や研修を受けながら、あり方を共有している。看護師でなくても出来る終末期の支援のあり方を勉強したり、利用者、家族の希望で事業所で過ごされる方の意向を受け入れることを視野に入れて、検討していく時期と受け止めている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内で毎月、救急対応勉強会に積極的に参加し利用者の個々の既往歴や服薬内容の把握に努めている。	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練を実施している。地域性で大雨や雪で停電が多く一年を通し停電に備えている。職員間の連携も出来ているが地域との協力については運営推進会議で協力の依頼を行っているも、まだ協力を願う災害は起きていない。	運営推進委員の協力も受けながら、災害対策を立てることが望ましいと考える。運営会議の委員に近所の方を加入してもらうことと一緒に検討されたい。また、職員だけで夜間想定避難時間等を実測訓練することも期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価			
			実践状況		実践状況			
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	手伝いをしてもらった後に「有難うございます」「お蔭様でした」の声が掛けを実践している。最近は利用者より「また声をかけてね」「出来る事はやっからね」などの有り難い声が聞かれるようになった。		日常の会話の中に、「どうもありがとう」など、お互いに感謝の言葉が出ている。食事風景でも日常的に会話がスムーズに交わされていることを窺わせる光景であった。隣の棟から遊びに来ている利用者にも同様に接していて継続して実践して頂きたい。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一日の生活の流れ、業務など決めてはいるが毎日、利用者に伺いながらペースを中断させる事がないように行っている。個々に自分の希望を職員に表せている様子が昨年より多く見える。		/			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間は決め、出来るだけ食事は一緒にと促してはいるが無理強いはず居室で摂取する方、時間をずらし遅く摂取する方など、その方のその日の気分にも柔軟に対応し支援している。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常の外出時(病院・バスレク)行事の整容や服装は本人の意向を取り入れ、おしゃれをする機会を設けている					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの趣向を把握し個別に変更をしながら食事の提供を行っている。また調理の手伝いも依頼し食事を楽しめる様に支援に努めている。残食があった場合は聞き取りを行う。また本人からも食べれない、苦手なものなど積極的に言える環境作りが出来ている。				苦手な食材は変更するなどして、食事は楽しめるように配慮している。無理強いすることもなく、職員も一緒にテーブルに着き同じ物をいただいていた。ほぼ皆さんは完食をしていた。水分摂取は食事外で様子を見ながら行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月の体重・食事の趣向・食べ方の癖・残食が出ない様な調理の工夫等を職員が把握している。水分摂取量も少ない方には家族に協力していただいたり工夫し提供している。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	今年度より施設全体で村田歯科の協力により口腔ケアの取り組みを始め毎月1回、施設ホールにて口腔体操の指導を受けている。ユニットでは毎食前の口腔体操、毎食後の口腔ケアの促し、一日一回の仕上げ磨きの介助を行っている。		/			

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	立位困難な方でも尿意・便意が保持出来る様にポータブルトイレなどを使用したり認知の進行している方は時間をみてトイレ誘導を行い汚染回数を少なく自尊心を傷つけない様に、またパットが必要な方でも必要な時間帯のみで最低限の装着を行うよう検討し支援している。	トイレへの誘導は、その日の利用者の体調を見ながら行っている。夜間でもトイレの誘導を基本にしている。入居当初は、排尿パターンに沿って誘導してサイクルを確認している。認知症が進んでもその人だけが見せるサインを見逃さないようにケアしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回おやつにヨーグルトの提供をしたり食事のメニューは野菜の植物繊維を念頭に入れメニュー作りを行っている。水分摂取も意識し散歩・体操・軽い運動を促し日々の支援に心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個浴・中間浴で入浴日が決まっているが本人の意向に沿い無理強いすることなく次の日に入浴していただいたり本人が希望した時間に可能な限り対応している。	入浴日にあわせて、利用者が快く入浴できるように工夫をしながら誘導している。また、タオルや着替え等をボールのように丸く包んで1セットにして利用者が持ちやすいように工夫している点も、微笑ましく支援している姿が窺い知れた。	
46		一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・入床時間はユニットで決めていないため様々である。個々の起床・入床のタイミングに合わせて支援している。昼夜逆転気味の方には日中の離床を促したり活動性を持つように促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬までの過程はマニュアルを作成し何十にも確認し事故防止に努めている。薬の変更時、気になる場合は病院に確認し薬の理解に努めている。また薬の変更のみならず利用者の変化には早めに気づく様に常に声を掛け合い観察に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除・調理の準備や片付け・洗濯・おしぼりたたみ・新聞配達・カーテンの開閉・食事の挨拶など自然に出来ている。また水分補給時は個々の嗜好品を提供して楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	暖かい季節は可能な限り施設周辺に散歩に出かけている。本人の意向で家族に買い物・美容院などを依頼したり職員が付き添い対応している。またバスレクを前年度より多く計画し閉鎖的にならないように工夫している。	外に出ると利用者の表情が嬉しそうに、楽しそうに、変化していくのが見えると職員は話していた。そのために、家族の協力を受けたり、外出先の協力を得たりして、実現させることに、職員は努力している。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぬくもり(うめユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週2回の食材の買い物に交換で同行していただいたりバスレク、毎週3日の訪問販売(菓子、パン)などを通して本人と相談しながら希望に沿った買い物ができる様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は本人から家族より頻回に自由に行われている。本人希望の電話は家族の都合の良い時間を把握し支援している。手紙は今年は減っている為、絵手紙などを行い減少防止に繋げるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要な方の居室前には名前の紙をまたトイレの場所の貼紙を行い混乱を少なくし共有スペースは明るく動き易い環境に、また季節毎の花を飾り居心地の良い空間作りを行っている。	ちぎり絵の好きな利用者の作品が展示されたり、各棟対抗の絵画やちぎり絵が展示され、居心地の良い空間作りを事業所全体に感じられる。各棟の台所の包丁も使用の都度安全な所に収納している。安全と心地よさと兼ね合わせた空間である。春を告げるようにネコヤナギも飾ってあった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに居室で昼寝や読書、食堂のソファで談話、隣のユニットへ散歩に向かう方、トランプやカルタに参加しに向かう方など個々に過ごされている。職員もユニット間が閉鎖的にならない様に意識し支援を行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族より季節毎に私物の交換が見られる。また本人からも必要な物の希望が聞かれ、その都度、家族・職員間で相談しながら居心地良い居室作りを工夫している。	居室の空間作りは、利用者それぞれが工夫している。物であふれる様ではなく職員の適度な整理整頓が活かされた居室になっている。認知症が進み、居室を間違える利用者に対しては、本人の希望もあり、名前を大きく貼り出している。居室には仏壇やマイデスクや椅子を持ち込むなど、入居前の生活感が感じられる部屋となっている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの整備以外は食堂のテーブルを個々の体型を考えた高さに調節し正しい座位姿勢に繋げ安全な食事が出来る様に、共有・居室共に利用者の安全を考え配置している。		